

事例7 「話すこと [発表]」につながる「読むこと」の工夫をねらった事例

○学年 第1学年

○主な領域 「読むこと」

○事例のポイント

- ①単元の初めに一度「話すこと [発表]」の言語活動に取り組みさせることで、生徒個々に自身の課題をつかませる。
- ②言語活動を通じた指導を行うことで単元の学習意義や目的を理解させ、学ぶ意欲を高める。
- ③生徒の思考を働かせるために、主に読み取る場面や聞き取る場面、発表する場面においてICTを効果的に活用する。
- ④小・中学校の学びの接続及び連続性の観点から、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書かせる指導を、繰り返し行う。
- ⑤未知の英文を読み取らせる際に、読み取った内容を他者へ伝達する活動を設定することで、英文の概要を捉えさせる。
- ⑥「話すこと [発表]」については、複数の単元で指導を行うため、記録に残す評価は今後の単元で見取るようにする。本単元では「読むこと」のみ評価する。
- ⑦小学校と中学校の接続の視点や「読むこと」から「話すこと」につながる領域統合型の言語活動を「単元の指導の実際について」として、明示している。

ICTを活用した主な学習場面

①英語の音声確認や内容確認及び視覚発表資料として使用

ICT活用の利点

- ① プレゼンテーションソフトを活用し、発表の際に「イラストや写真」などの視覚情報を参考に提示することで、自分の考えを相手に対して、効果的に伝達することにつながる。
- ② 学習者用デジタル教科書を活用し、英語の音声を確認することや登場人物の状況を映像や画像で確認することで自分の発表に生かせる。

1 単元名 PROGRAM 6 The Way to School

2 単元について (略)

3 生徒の実態と本単元の意図 (略)

4 単元の目標

教科書に書かれた「ある人物」のことを知らないALTに、その人物の情報を伝えるために、「ある人物」についての英文を読んで概要や要点を捉えることができる。

- ・「人称を表す代名詞 (目的格)」や「疑問詞 (why) 及び接続詞 (because)」の意味や働きについての理解を基に、世界で同じように生きる人物について英語で書かれた文章の内容を読み取る技能を身に付けている。 (知識及び技能)
- ・教科書に書かれた「ある人物」のことを知らないALTに、その人物の情報を伝えるために、「ある人物」について書かれた文章の概要や要点を捉えている。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・教科書に書かれた「ある人物」のことを知らないALTに、その人物の情報を伝えるために、「ある人物」について書かれた文章の概要や要点を捉えようとしている。 (学びに向かう力、人間性等)

5 単元の評価規準

(本単元における「聞くこと」、「話すこと [やり取り]」、「書くこと」については、目標に向けての指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。「話すこと [発表]」については活動を行うが、複数の単元で指導を行い、以降の単元において「話すこと [発表]」における「思考・判断・表現」の達成状況について評価に残すものとする。)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
読むこと (読)	<知識> ①「人称を表す代名詞（目的格）」や「疑問詞（why）及び接続詞（because）」の意味や働きを理解している。 <技能> ②「人称を表す代名詞（目的格）」や「疑問詞（why）及び接続詞（because）」の理解を基に、世界で同じように生きる人物について英語で書かれた文章の内容を読み取る技能を身に付けている。	①教科書に書かれた「ある人物」のことを知らないALTに、その人物の情報を伝えるために、「ある人物」について書かれた文章の概要や要点を捉えている。	②教科書に書かれた「ある人物」のことを知らないALTに、その人物の情報を伝えるために、「ある人物」について書かれた文章の概要や要点を捉えようとしている。
	事例のポイント⑦（後半「8」に詳細を示す） 小学校と中学校の接続の視点や「読むこと」から「話すこと」につながる領域統合型の言語活動を「単元の指導の実際について」として、明示している。		

6 単元の指導と評価の計画（5時間扱い）

時	◆目標・○活動	評価		
		知・技	思・判・表	態
	◆単元の目標を理解し、「人称を表す代名詞（目的格）」や「疑問詞（why）及び接続詞（because）」の用法の意味や働きを理解し、「ある人物」に関して他者に伝える活動を通して、本単元でできるようになることを確認することができる。			◎評価規準〈評価方法〉
1	○動画の視聴 ・ALTが持参した「世界の果ての通学路」の予告編を視聴する。 ○自分で選んだ人物を伝える活動 ・既習事項を使いながら生徒が選んだ人物を、ICT端末を用いて、友人に説明する。 ○生徒同士及び学級全体での発表内容の振り返り		国語科や社会科など他の教科等で学習した内容を取り上げることができる。 ICT活用の利点② 学習者用デジタル教科書を活用し、音声を確認することや登場人物の状況を映像等で確認することで自分の発表に生かせるようにする。 編P140指導計画作成の留意点(3)	事例のポイント① 単元の初めから言語活動に取り組みせることで、生徒個々に自身の課題をつかませる。 事例のポイント② 言語活動を通じた指導を行うことで単元の学習意義や目的を理解させ、学ぶ意欲を高める。

<p>・発表後、今後の学習で必要なことを生徒同士及び学級全体で振り返り、整理する。</p> <p>○言語活動</p> <p>・「人称を表す代名詞（目的格）」や「疑問詞（why）及び接続詞（because）」の用法の意味や働きについて、言語活動を通して理解する。</p>	<p>事例のポイント③</p> <p>主体的に思考する活動を促すために、ICTの利点を生かし、主に発表する活動において効果的に活用する。</p>
<p>◆「ある人物」がどのような人物なのかをALTに伝えるために、教科書本文の概要や要点を捉えることができる。</p> <p>○教科書の内容理解に関わる「読むこと」の活動</p> <p>・「人称を表す代名詞（目的格）」や「疑問詞（why）及び接続詞（because）」の用法が用いられた教科書本文について、指導者用及び学習者用デジタル教科書を活用し、聞き取ったり、読み取ったりする活動から、登場人物の概要や要点を捉える。</p> <p>事例のポイント④</p> <p>小・中学校の学びの接続及び連続性の観点から、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書かせる指導を、音声を生かして文字の学習に結びつくよう、小・中学校の円滑な接続を意識し、繰り返し行う。</p> <p>○教科書の内容を他者に伝える活動</p> <p>・ALTに伝えるつもりで、友人に読み取った概要や要点を英語で伝達する活動を通して、情報や事実を整理する。</p> <p>○活動後の振り返り</p> <p>・発表した内容を生徒同士及び学級全体で共有後、効果的に伝える工夫を確認する。</p>	<p>読</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>◎「人称を表す代名詞（目的格）」や「疑問詞（why）及び接続詞（because）」の意味や働きを理解している。〈成果物分析〉</p> <p>◎「人称を表す代名詞（目的格）」や「疑問詞（why）及び接続詞（because）」の理解を基に、世界で同じように生きる人物について英語で書かれた文章の内容を読み取る技能を身に付けている。〈成果物分析〉</p> <p>事例のポイント⑤</p> <p>未知の英文を読み取らせる際に、読み取った内容を他者へ伝達する活動を設定することで、英文の概要を捉えさせる。</p>
<p>◆教科書本文の概要や要点を捉え、伝え合う際に必要になる工夫について整理して、伝え合うことができる。</p> <p>◆教科書本文を用いながら、「人称を表す代名詞（目的格）」や「疑問詞（why）及び接続詞（because）」の用法の意味や働きを理解できる。</p> <p>○教科書の内容理解に関する活動</p> <p>・教科書本文（第3時の続き）を読み、要点や概要を捉える。</p> <p>○教科書の内容を他者に伝える活動</p> <p>・教科書の「ある人物」について英文で描写する活動を通して、本課で学習した2つの用法などを活用しながら、事実を話す。</p> <p>○他者との振り返り</p> <p>・教科書本文の内容やそれに関連した内容に</p>	<p>「評価についての考え方」</p> <p>本単元においては、第1時、第3時及び第4時は、目標に向けて、記録に残す評価は行わない。ただし、生徒の学習状況を把握し、学習改善や教師の指導改善に生かすことは毎時間行う必要がある。活動させているだけにならないよう十分留意する。</p>

2
本
時

3
・
4

	<p>ついて、自分の考えをもち、他者と意見交換する。</p>				
	<p>◆教科書に描かれている人物の概要や要点を捉え、その内容等を読み取ることができる。 ◆読み取った教科書本文の概要や要点を基に、自分の考えを交え、伝えることができる。</p>				
	<p>○英語を用いて教科書の内容を伝え合う活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を生かし、教科書本文に書かれた人物について、I C T端末を活用し、ALT 役になった友人に伝える。 <p>○活動後の振り返り及び情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み取った情報を整理し、友人に伝える中でその登場人物に関する情報（相手に伝わりやすい情報や人物の情報）を基に、英語で友人に効果的に伝えるための工夫をまとめる。 				<p>編 P140 指導計画作成の留意点(2)</p>
5	<p>○活動中の動画撮影及びポータルサイトへの提出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時までの学習を生かし、ALT 役になった友人に教科書本文に書かれた人物についてもう一度伝える。 ・その活動の様子を動画で残し、ポータルサイト上に提出する。 	<p>読 ①</p>	<p>読 ①</p>	<p>◎教科書に書かれた「ある人物」のことを知らない ALT に、その人物の情報を伝えるために、「ある人物」について書かれた文章の概要や要点を捉えている。〈動画分析〉</p> <p>◎教科書に書かれた「ある人物」のことを知らない ALT に、その人物の情報を伝えるために、「ある人物」について書かれた文章の概要や要点を捉えようとしている。〈観察及び動画分析〉</p>	<p>事例のポイント⑤</p> <p>未知の英文を読み取らせる際に、読み取った内容を他者へ伝達する活動を設定することで、英文の概要を捉えさせる。</p>
	<p>事例のポイント⑥</p> <p>「話すこと[発表]」については複数の単元で指導を行うため、記録に残す評価は今後の単元で見とるようにする。本単元では「読むこと」のみ評価する。</p>				
後日	<p>・ペーパーテスト</p>	<p>読 ① ②</p>		<p>◎「人称を表す代名詞（目的格）」や「疑問詞（why）及び接続詞（because）」の意味や働きを理解している。</p> <p>◎「人称を表す代名詞（目的格）」や「疑問詞（why）及び接続詞（because）」の理解を基に、世界で同じように生きる人物について英語で書かれた文章の内容を読み取る技能を身に付けている。</p>	

7 本時の展開

目標 「ある人物」がどのような人物なのかをALTに伝えるために、教科書本文の概要や要点を捉えることができる。

準備 指導者用ICT端末：**指端**、学習者用ICT端末：**学端**、振り返りカード：**振力**

○本時の展開（2／5）

時間	○生徒の活動 ・学習内容	・指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶をする。 ○帯活動 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の歌 ・Small Talk ○教科書に書かれた「ある人物」をALTに紹介する目的を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で挨拶をする。 ・本時の流れを提示しておく。 ・単元の目的を達成するために、本時までの振り返りカードなどを活用させ、どのような学習が必要かについて考える時間を設ける。 	<p>指端</p> <p>振力</p>
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の内容理解 <ul style="list-style-type: none"> ・音声を聞き、話されている順番に場面絵を並び替える。 《全体》 ・聞き取れなかった英単語や新出語句、英語の音声は、写真や図と文字を併せて全体の場でも確認をする。 《全体》 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>事例のポイント④（言語面の指導）</p> <p>①写真や図などを基に英語の音と意味を一致させた後に英語の文字を見せる。 ②英語と日本語の語順の違いに着目させる。 ③読む際に、音のつながりを意識させて、まとまりをもって読めるようにする。 ④代名詞や接続詞に着目させ、話のつながりについても意識をさせる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・馴染みのある単語を基に、初めて聞く文章の話されている情景を場面絵で想起できるようにする。 ・写真や図と文字を併せて示すことで意味の理解を促し、音と文字の関連性や、英語と日本語の音の違いにも気付かせる。 	<p>指端</p> <p>指端 学端</p>
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ・内容について教科書の絵や文章を参考に、プレゼンテーション資料上に整理する。 《個人》 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ICT活用の利点②</p> <p>学習者用デジタル教科書を活用し、音声を確認することや登場人物の状況を映像等で確認することで自分の発表に生かせるようにする。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ある人物」がどんな人物なのか、その情報がどこに書かれているか、教科書本文に印をつけるように促す。 ・情報の順番や会話の流れから、言語の働きにも着目させ、教科書の概要や要点を読み取れるようにする。 	<p>学端</p>
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者用デジタル教科書で本文を見たり音声を聞いたりしながら各時音読をする。 《個人》 ・活動後、教師とのやり取りを行いながら達成状況を把握する。 《全体》 	<ul style="list-style-type: none"> ・単に英語を音読させるのではなく、音のつながり等の音声面にも着目させる。 ・日本語と英語の音声の違いや音声と綴りの関連にも気付かせる。 ・読み手に伝わる音読の工夫について、生徒が考えられるように促す。 ・情報の読み取り方について、生徒同士や生徒と教師によるやり取りを通して、 	<p>学端</p>

ICT活用の利点①

プレゼンテーションソフトを活用し、発表の際に「イラストや写真」などの視覚情報を参考に提示することで、自分の考えを相手に対して、効果的に伝達することにつながる。

○教科書の内容を伝達する活動

- ・読み取った情報を基にスライドにまとめる。 《個人》

- ・作成した資料を活用し「登場人物」のことを、友人に英語で伝達する。 《ペア》

- ・生徒同士での振り返りを行う。 《ペア》

- ・生徒の活動に対する教師からのフィードバックを聞く。 《全体》

- ・役割を交代し、再度同様の活動を行う。 《ペア》

- ・生徒同士での振り返りを行う。 《ペア》

- ・生徒の活動に対する教師からのフィードバックを聞く。 《全体》

確認する機会を設ける。

- ・ 伝達の際に必要な情報をプレゼンテーションソフトの簡潔なスライドにまとめさせ、伝達の際に活用させる。

- ・友人は「ある登場人物」を知らないALT役になり、聞き手として活動に参加させる。

- ・聞き手に「ALTに伝える上で情報の不足や正確性」、「話の順番など」に注目させ、話者へフィードバックを行わせる。

- ・生徒とやり取りをしながら、生徒が内容に関する振り返りができるようにする。

- ・聞き手は、話し手に付け加えた方が良い情報や発話の正確性、話す順番などについてフィードバックを行う。

- ・生徒とのやり取りを通して、生徒が内容に関する振り返りができるようにする。

学端

学端

学端

○生徒個別による振り返り及び提出

- ・単元を通して学んだことを振り返りカードに記入し、記録をする。

- ・ポータルサイト上に、本日作成したプレゼンテーション資料を提出する

- 挨拶をする。

- ・ 読み取った情報を相手に伝える活動において、情報や順番をどのように伝えることが重要かという視点で振り返りを書くように促す。

◎「人称を表す代名詞（目的格）」や「疑問詞（why）及び接続詞（because）」の意味や働きを理解している。〈成果物分析〉

◎「人称を表す代名詞（目的格）」や「疑問詞（why）及び接続詞（because）」の理解を基に、世界で同じように生きる人物について英語で書かれた文章の内容を読み取る技能を身に付けている。〈成果物分析〉

- ・全体で挨拶をする。

振力

まとめ
5分

事例のポイント①

生徒の振り返りから、生徒がもっと学びたいと思っていることや、分かったこと、分からなかったこと、生徒の学び方の良い点などを把握するとともに、生徒の学習の様子を振り返り、次時以降の授業改善等につなげる。

8 単元の指導の実際について

ここからは事例のポイント⑥として、「6 単元の指導の評価の計画」における各時の具体的な生徒の様子や指導の状況を示したい。

第1時

○ALT が持参した「世界の果ての通学路」の予告編を視聴する。

○視聴後、ALT は「ある人物」について分からないという状況を確認する。

- ・ALT が本単元の目標や英語でコミュニケーションを行う目的や場面、状況等を説明した。
- ・登場人物の一人であるジャクソンに焦点を当て、どんな人物かを知らない ALT に説明するために教科書本文を読み、情報を得たり、整理したりすることを確認した。

○既習事項を使いながら生徒が選んだ人物を、ICT 端末を用いて、友人に説明する。

- ・ジャクソンについては、生徒は「未知」である。まずは「人物」を初めて説明することになる生徒たちに、必要な情報や方法について考えさせた。その上で、生徒が「任意の人物」を選び、その人物を知らない隣の生徒へ英語で説明させた。
- ・一度説明させた後、言葉だけでは難しいことから、生徒は写真や図などを使って説明する方が分かりやすいことに気付いていた。そこで学習者用 ICT 端末を利活用させ、情報の収集やプレゼンテーション資料を使って、再度説明を行わせた。
- ・自分たちの知っている知識や語彙を使って説明させてみることにした。その際に、生徒から表出された英文と使った資料が、以下のとおりである。

<p>生徒 A：海賊が舞台となったアニメ（マンガ）の主人公 A: This is (キャラクター名). Do you know? (キャラクター名) is strong. (キャラクター名) has long arms. (キャラクター名) has many friends. I like (キャラクター名). Thank you.</p>	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">海賊のイラスト</td> <td style="text-align: right;">(生徒Aの一枚資料イメージ)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">紹介したい キャラクターのイラスト</td> <td style="text-align: center;">キャラクターが 登場するマンガ のイラスト</td> </tr> </table>	海賊のイラスト	(生徒Aの一枚資料イメージ)	紹介したい キャラクターのイラスト	キャラクターが 登場するマンガ のイラスト
海賊のイラスト	(生徒Aの一枚資料イメージ)				
紹介したい キャラクターのイラスト	キャラクターが 登場するマンガ のイラスト				

○発表後、今後の学習において必要なことを生徒同士及び学級全体で振り返り、整理する。

○「人称を表す代名詞（目的格）」や「疑問詞（why）及び接続詞（because）」の用法の意味や働きについて、言語活動を通して理解する。

- ・うまくいかないと発言した生徒からは「単語が並んでしまった」や「伝えたい意図は伝えられたが、単文が並び、うまく伝えられたとは言えない」という意見や振り返りが見られた。一方で、どの生徒も共通して「写真を指して人を説明する」、また He is～./She is～.といった表現に加え、him や her といった目的格の重要性に気付いた生徒も多かった。

第2時

○「人称を表す代名詞（目的格）」や「疑問詞（why）及び接続詞（because）」の用法が用いられた教科書本文について、指導者用及び学習者用デジタル教科書を活用し聞き取ったり、読み取ったりする活動から、登場人物の概要や要点を捉える。

- ・教科書本文の音声を聞き取り、まずは本文の内容を聞いて確認した。写真が描写する内容を確認することや、話されている順番を整理する活動を行っており、小・中学校の連携の視点からも円滑に導入ができた。教科書の英文は著作権により掲載できないが、以下の内容が書かれている。

<ul style="list-style-type: none"> ・「世界の果ての通学路」の登場人物の一人「ジャクソン」についての話である。 ・ジャクソンとその妹はケニアに住んでいる。 ・学校への道のりは片道 15 km ある。 ・毎朝、2 時間もかけてサバンナを越え、学校に通っている。 ・サバンナは象が学生を攻撃したりすることもあり、危険な場所ではある。 ・子供たちの親は祈りながら送り出している。 ・ジャクソンの夢は、飛行機に関する夢である。(パイロットだが、教科書上に記述はない。)
--

- ・場面絵（ピクチャーカード）は、学習者用デジタル教科書から確認できるため、教師が作成した場面絵を基に、指導者用デジタル教科書の音声を読み、その場面絵を話の順番に並べ直させた。活動後、なぜその順番になったのかを音声を基に学級全体で確認した。生徒は動物の名前との比較や代名詞（主格、目的格）に注目し、会話内容を聞き取っている姿が見られた。
- ・一方で、聞き馴染みのない単語や聞いたことがない単語については、生徒にどのように聞こえたのかを確認した。小学校で学んだことを想起させながら、一文字ずつ音声と綴りを照らし合わせて指導を行った。指導の際には、右下図のような文字とイラストが書かれているプレゼンテーション資料を示し、学級全体で確認した。具体的には、次のようなやり取りが教師と生徒の間で行われた。

<p><“pray”という単語に関する問答></p> <p>教師： 日本語だと「プレイ」って言いますが……</p> <p>生徒A： 「プレイ」って、遊ぶってことですか。</p> <p>play って以前、習いましたよね。</p> <p>教師： よく覚えていましたね。</p> <p>その時と今回はどんなところが違いますか。</p> <p>生徒A： あ！/l/じゃなくて、/r/になっている。</p> <p>教師： よく分かりましたね。小学校の時にも学んだと思いますが、どんなところに気を付けて r の発音をするか覚えていますか。</p> <p>生徒B： /l/は日本語の「ラ」みたいな音だけど、/r/は「ウラ」みたいに唇を丸めて、舌がどこにもつけないで、「ラ」みたいな音を出すって習った！</p> <p>教師： よく覚えていますね。では一文字ずつ確認しながら読んでみましょう。</p> <p>p. r. a. y... pray</p> <p>生徒： p. r. a. y... pray</p>	<p>pray</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>祈りをささげている人の イラスト</p> </div>
--	---

- ・単語に限らず、英語で書かれた文章についても、生徒間で以下のようなやり取りを行っていた。

<p>< Every morning he runs and walks 15 kilometers to school. という文に関するやり取り ></p> <p>生徒A： 「フィフティー」……50キロも？</p> <p>生徒B： Every morning だから、毎朝ってことかな。50キロってすごいね。</p> <p>もう一回聞いてみよう。……（視聴後）……なんか「ティ」じゃなくて「ティー」っぽい音が聞こえるよね。</p> <p>生徒C： たしかに。前に study の時、“dy”は「ディー」って伸ばさずに、「ディ」だったよね。……（再度視聴後）……ディーの後に、ヌの音が聞こえる。これって/n/の音だよ。ってことは15を表す fifteen じゃないかな？</p>

- ・小学校で学んだ「なじみのある音声」を基に、綴りと結び付けながら一つ一つの語の意味の理解に生かしている姿が見られていた。また、聞き取った際に“fifteen”や“fifty”のような音の違いや注意すべき点を確認し、伝達の際にも注意が必要であることに気付いていた。
- ・読み取る際にはジャクソンの情報に加え、なぜ登場人物がそのような発言をしたのかについても生徒に考えさせた。内容のつながりや登場人物の心情を表す発言に着目させることで、生徒は音読だけでなく、「話すこと」についても考えるきっかけとなった。具体的には以下のようなやり取りが教師と生徒の間で行われた。

<p>登場人物A： He goes to school with his sister. He walks across the savanna with her.</p> <p>登場人物B： That's tough. という文を見た生徒のやり取り。</p> <p>生徒A： That... 「それ」ってどれだ？ tough って「タフ」だから、「大変」ってこと？</p> <p>生徒B： 妹と学校に行くのが大変なのかな。</p> <p>生徒C： 待って、その直前に15キロも毎朝歩くことが書いてあるよね。「学校に通う」ことに関する情報全てにも関連しているのではないかな。</p>

- ・生徒は単語だけでなく、本文に示されている情報についても目を向け、登場人物の気持ちに寄り添い、文章から必要な情報を読み取る姿が見られた。

○ALT に伝えるつもりで友人に読み取った概要や要点を英語で伝達する活動を通して、情報や事

実を整理する。

- ・教科書の内容を説明する活動（リテリング）の形式を取り、限られた時間の中で読み取った情報を友人に伝えさせた。初めて読んだ文章だったが、多くの生徒が友人に読み取った内容を伝えている様子が見られた。以下の内容はある生徒（S②）が話した文である。

S②: Look at this boy. He is Jackson. He lives in Kenya. I respect him.
Every morning he runs and walks 15 kilometers to school. It takes two hours. He goes to school with his sister and he walks across the savanna. Savanna is a dangerous place.

- ・教科書本文は二人の登場人物がジャクソンのことを説明しながら、会話を進めていく形式である。S②は教科書の英文のうち、「説明している登場人物」のセリフをほぼそのまま伝達していた。読み取りの際も単語の意味を確認し、文章の構成を参考に、本文の意味を捉えていた。また、読み取った内容を全て伝えることが大切だと気づき、「説明している登場人物」に注目して、音読をしている姿が見られた。しかしながら、発話（“I respect him.”）の誤り（Iではなく本来は he）のように、登場人物の考えを、S②自身が捉えているかのように話をしてしまった点については、生徒同士の振り返りの場で確認をしていた。

○発表した内容を生徒同士及び学級全体で共有後、効果的に伝える工夫を確認する。

- ・内容の共有については多くの生徒が「伝えた」経験はできたものの、「もう少し工夫ができた」という感想をもつ生徒が見られた。生徒の多くは「書いてあることをそのまま伝えてしまった」ということや「ただ伝えただけでは、本当に相手に伝わるのかは分からない」と発言していた。「再度読み進める際、どの情報がどこに記載され、それらをどのようにまとめるべきかを考える必要もある」と述べた生徒もいた。

第3、4時

○教科書本文（第3時の続き）を読み、要点や概要を捉える。

○教科書の「ある人物」について英文で描写する活動を通して、本課で学習した二つの用法な用法などを活用しながら、事実を話す。

- ・前時で教科書の内容を伝達する活動を行ったが、その際に生徒から出てきた疑問点や情報の内容、その読み方を確認した。
- ・特に”Why~/Because~”についても、小学校での学習知識を基にして情報のつながりについて説明を行っている生徒がいた。
- ・また「読むこと」を行った結果、「話すこと」につながる視点として、どのような音読を行えば、登場人物の思いや考えが他者に伝わるのか、について考え、伝達している様子も見られていた。例えば、次の文をどう読むかについても生徒から以下の発言が見られた。

登場人物A: **Every morning he runs and walks 15 kilometers to school.** It takes two hours.

登場人物B: Wow!

※大文字表記は強勢を置く場所を示す。

生徒A: まず伝えたいことって、「毎朝15キロ学校まで歩いたり走ったり通っている」っていうことだよ。英語らしく読みたいよね。

生徒C: 文が長いね。どこかで分けられないか。
day. みたいに最後にくっつくこと前にもあったから、ここで切ってみる？

生徒A: たしかにね。いいかも。

生徒B: 15キロって「伝えたいところ」だと思うんだよね。普段じゃ考えられない距離だからさ。それを聞いて、Wow!って言っているのもありそうだよ。

生徒A: じゃあ、fifTEEN kiLOMeters to scHOOL みたいなこと？

生徒B: 3拍か(3箇所強く読まれるところ)。じゃあ he runs and walks をどうしようか。

生徒C: この話って、ジャクソンの話だけだから he って明らかな気がするんだよね。だから RUNs and WALks みたいなイメージかな。

生徒B: 「ウ r アンズェンワークス」みたいに音が繋がるってことだよ。2拍ってことかな。

生徒A: じゃあ Every MORning みたいになるから、くっつけてみると Every MORning he RUNs and WALks fifTEEN kiLOMeters to scHOOL.って感じかな？

日々の指導で、英語らしく読むためには次の3つが日本語とは異なる点であり、大切だということを理解している生徒たちである。

- ①イントネーション(抑揚)が存在する
- ②アクセント(強勢)があり、強く読まれることで、相手に伝えたいことが伝わるということ。
- ③弱い音や強い音等があり、拍(リズム)が存在するという点。

- ・また読み取った内容を他者に伝える場面で、次のやり取りが教師と生徒の間で行われた。

教師: では、読み取れた内容をALTの先生に伝える前に、再度、隣の人がALTの先生になりきってもらい、伝えてみる時間を取ろうと思います。今回は、どんなことにみんなは気を付けながら行いますか。

生徒A: 前はただ知っていることを伝えちゃっていたから、もう少し考えて伝えたい。

教師: じゃあ具体的にはどんな工夫をして伝えたいかな。他の人も考えがあったら教えてください。

生徒B: 前回自分は一方的に話をしちゃった。どうせだったら、知ってもらいたいから相手も大切にできる伝え方にしたい。

生徒C: 相手に聞いてみたりとかってこと？

生徒B: そうだね。Do you know him? とか、ケニアを知らない人になら丁寧に説明したいよね。ケニアについてよく分かっている人なら、教科書にはケニアについての情報は、そこまで書かれていないから言わなくてもいいかもしれない。

教師: なるほどね。ケニアの場所がどこにあるかということかな？人口とかですか？

生徒B: うーん、どちらかというとなバナンがどんな大きさなのか、よく分からないから自分ならその話を少しするかも。15キロも数字だけだと分かりづらいから、学校から〇〇駅までの距離だよ、とか。自分も聞いていてその方が分かりやすいかも。

教師: ほお、具体的にすることだね。

生徒B: そうしたら、私はなバナンがどんなに危険な場所かってことを伝えながら、そんな場所を通っているんだという順番で伝えてみようかな。教科書をそのまま伝えるんじゃなくて、順番を変えながら伝えてみるかも。

- ・一方的に話者が内容を聞き手に伝えても伝わらないことがあることや話の順番を考えて、必要な情報を整理し伝えることの意義に触れる、という学習となったとともに、複数の単元で学ぶ「話すこと [発表]」の指導にもつながった。また読み取れているからこそ、話

す内容の順番や整理につながるため、生徒も「話したことを伝えたいからこそ読み取りたい」という気持ちが高まっていた。

- ・上記のやり取りの後、生徒は再度、自分たちが伝えたいことを整理したり、プレゼンテーション資料のイラストやその順番（位置）を調整したりしている様子が見られた。
- 教科書本文の内容やそれに関連した内容について、自分の考えをもち、他者と意見交換する。
 - ・教科書本文の最後には「ヒントが飛行機である」という内容が書かれている。ある生徒はこの点に着目し、ICT端末でジャクソンの現在の話（“Now he is a pilot, so his dream comes true.”と発表）を調べ、発表に加えていた。またサバンナの大きさを調べ、ある地区のサバンナの大きさが四国の大きさと同じであるという話（“The size of a savanna is like the size of Shikoku.”と発表）を加えている生徒もいた。さらにはサバンナが危険な場所だと強調するため、教科書に書かれているゾウだけでなく、他に生息している動物（“Cheetahs and lions live there too.”と発表）も付け加えている生徒もいた。多くの生徒は“I can't live there.”や“I don't want to live there and go to school. It is hard.”などと自分の考えを付け加え、聞き手も意見に共感している姿が見られた。

第5時

- 前時までの学習を生かし、教科書本文に書かれた人物について、ICT端末を活用し、ALT役になった友人に伝える。

読み取った情報を整理し、友人に伝える中でその登場人物に関する内容（相手に伝わりやすい情報や必要な情報）を基に、英語で友人に効果的に伝えるための工夫をまとめる。

 - ・単元の最初に行った「ALT役になった友人に伝達する」という目標を学級全体で確認した。単元の最初との変容を「話し手」と「聞き手」が実感できるように設定した。
 - ・目標の確認後、生徒は第3、4時までで学習したことを思い返させ、どのような点に気を付けながら発表すればよいか、内容面と言語面から振り返った。
- 本時までの学習を生かし、ALT役になった友人に教科書本文に書かれた人物についてもう一度伝える。
- その活動の様子を動画で残し、ポータルサイト上に提出する。
 - ・第2時に発表を行っていたS_(Z)の発表は、第5時において次のような変容が見られた。この時の「聞き手」はS_(Y)である。

<p>S_(Z): <u>Do you know this boy?</u> S_(Y): Sorry, I don't know. S_(Z): He is Jackson. He lives in Kenya. Do you know Kenya? Kenya is in Africa. He is like me, a child and a student. He goes to school every day. He has a sister. His sister goes to school too. Every morning they run and walk 15 kilometers to school. It takes two hours. <u>Amazing, right?</u> Kenya is famous for the savanna. <u>Do you know the savanna?</u> Dangerous animals live there. For example, elephants and lions live there. So their parents pray for their safety. The savanna is dangerous, but Jackson wants to go to school. <u>Do you know why?</u> S_(Y): No. S_(Z): Because he has a dream. It is a pilot. Now he is a pilot.</p>	<table border="1"> <tr> <td>ジャクソンの写真</td> <td>(生徒S_(Z)の一枚資料イメージ)</td> </tr> <tr> <td>ケニアの国旗と世界地図</td> <td>サバンナの写真</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ゾウやライオンの写真</td> </tr> </table> <p>事例のポイント⑥ 「話すこと[発表]」については複数の単元で指導を行うため、記録に残す評価は今後の単元で見取るようにする。本単元では「読むこと」のみ評価する。</p>	ジャクソンの写真	(生徒S _(Z) の一枚資料イメージ)	ケニアの国旗と世界地図	サバンナの写真		ゾウやライオンの写真
ジャクソンの写真	(生徒S _(Z) の一枚資料イメージ)						
ケニアの国旗と世界地図	サバンナの写真						
	ゾウやライオンの写真						

- ・下線部を主として、S_(Z)はS_(Y)に問いかけながら説明をしている様子が見られた。今回の単元は、「読むこと」を評価する単元計画ではあるが、この単元を通して、必要な情報を読み取ることができているからこそ、「話すこと[発表]」につながる学習内容であることが分かった。
- ・読み取った情報について、S_(Z)は、①ジャクソンの情報について、②学校に通っていること、③サバンナのことについて、④学校を通うにはサバンナが切り離せない現実、の順に追って説明する方が、相手には伝わりやすいのではないかと選択し、代名詞などを使い分けている

様子が見られた。これは単元の学習で学んだ、「代名詞の働き」などから文と文がつながっているということなどを意識していたと思われる。

9 パフォーマンステスト、ペーパーテスト例

(1) パフォーマンステスト例

「読むこと」における「思考・判断・表現」を測るパフォーマンステストとして、「ある特定の話者が英語で述べた、まとまりのある文章の必要な情報を読み取ったり、概要を捉えたりする」形式が重要となる。本單元においては「ある人物」を知らない ALT に、ある人物に関する英文の概要を捉え、英語で伝達する課題を設定した。ここでは参考例として、1 学年の実践として、「書くこと」と連動させた課題例を以下に示す。

読み取る内容：Ajit（ネパール在住）

Ajit lives in Nepal. He helps his father on the farm from 6 to 8 in the morning. He goes to elementary school through a dangerous forest. Every day, he crosses a 60-meter-wide river by a cable car with only two wires. Then, he hitchhikes to the school in the city. It takes two hours to get to school. His dream is a pilot. Why? Because he wants to go around the world.

	採点基準及び解答類型	正答
1	書かれている登場人物のことを知らない ALT に、登場人物について正確に理解できる英語（大文字・小文字の描き分け等に誤りがあるものを含む）で解答しているもの。 （正答例） Ajit is an elementary school student in Nepal. He goes to school through a forest every day. It takes two hours. He uses a cable car with two wires and crosses a river. He wants to go around the world, so his dream is a pilot.	◎ (A)
2	書かれている登場人物のことを知らない ALT に、登場人物について おおむね理解できる 英語（書き手の考えを伝える上で、大きな支障となる語や文法事項等の誤りがないもの）で解答しているもの。 ・ goes to school.（主語が欠落している） ・ He wonts to go.（つづりに誤りがある） ・ A cable car. Use.（語順の誤りや語や句で解答している） ・ Ajit am an elementary school student. He cross a river.（動詞の活用形に誤りがある）	○ (B)

「おおむね理解できる英語」については、各学校の英語科内で確認をし、基準については統一を図るとよい。

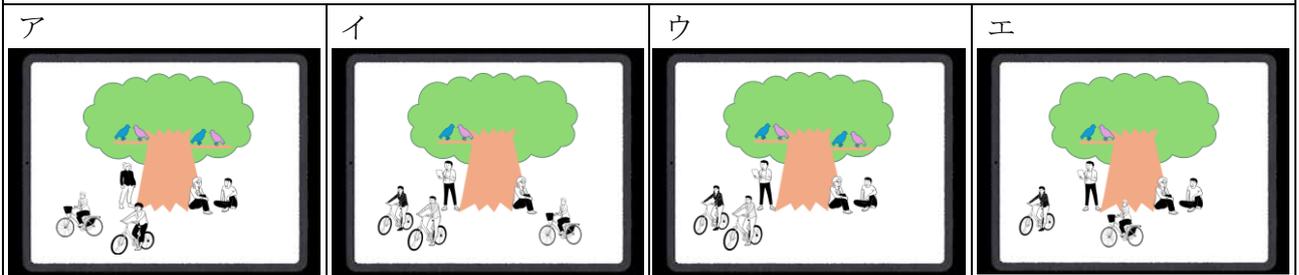
生徒同士の活動において、「読み取ったことを相手に伝達する」際でも同様の採点基準及び解答類型を基に評価できる。その際、口頭による伝達のため ICT 端末を活用し、その活動を動画や音声等で記録し提出させることで、一人一人の活動を見取ることができると考えられる。

(2) ペーパーテスト例

「思考・判断・表現」を評価する問題においては、当該単元で扱った言語材料（以下「特定の言語材料」）を必ずしも使用する必要はない。一方で、「知識・技能」の問題においては、特定の言語材料が必然的に使用されるよう、コミュニケーションの目的や場面、状況等を工夫することが重要である。以下は 1 学年の例ではないが、発達段階に応じて扱うことのできる例として示すものである。

ア 主に「知識・技能」を評価する問題例（現在分詞に注目した問題）

次の英文は、「夏休みの思い出」としてジョンが書いた日記である。その英文を読んでいる ALT が、頭の中で思い描いた絵として最も適切に表しているものを下のア、イ、ウ、エの中から一つ選び、記号で答えなさい。



I went to Midori Park during summer vacation. I saw two children cycling there.

There were three people under the tree.

One of them was using a computer and the others were chatting.

Also, I enjoyed watching four birds singing in the tree. I enjoyed a lot.

（正答 ウ）

（ア）問題作成のポイント

- ・特定の言語材料を使用し、評価問題を作成することで適切に「知識・技能」を評価することができる。
- ・「知識・技能」を評価する問題であっても、実際のコミュニケーションの場面等を設定することが重要である。一つのキーワードだけでなく、書かれた文章（文）全体の読み取る必然性や、文脈から判断して知識を活用することを評価する問題を作成することが大切になる。

例：【目的及び場面】

「夏休みの思い出」としてジョンが英語で日記を書き、ALT がそれを読んでいる。

【状況】

ジョンが書いた日記の内容を基に、ALT がその光景を頭の中で描写している。

改善が必要な例：目的や状況が明確ではない例

次の英文を読み、その内容について最も適するものを、下のア、イ、ウ、エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

（イ）本問題の特徴

- ・ジョンの「夏休みの思い出」に関するそれぞれの情報を整理した上で、その内容を基に適切な絵を選択する問題である。
- ・「評価の対象としている文法事項（現在分詞）」の理解を基に、それぞれの違いや意味合いを読み取ることができるか、文脈にも即して判断できるか否かを問う問題である。

イ 主に「思考・判断・表現」を評価する問題例

次の英文は、英語の授業で、海外から来日する人に対して日本のことを紹介することになったかえでさんが、「梅雨」に関する内容を英語で書いたものです。これを読み、かえでさんが改めて書いた英文の概要（文章全体の大まかな内容）として最も適切なものを、下のア、イ、ウ、エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

（スクリプト例）

In Japan, the rainy season is called “*tsuyu*.” It usually starts in early June and lasts until mid-July. During this time, the sky is often gray, and rain falls almost every day. The air feels warm and wet, and many people carry umbrellas when they go outside. Streets become shiny with water, and rivers flow faster because of the heavy rain.

The rainy season is very important for Japan. The rain helps rice fields grow, which is why farmers are happy to see it. Without enough rain, crops would not grow well, and food could become more expensive. Even though the weather can feel uncomfortable, it supports daily life. However, the rain sometimes becomes very strong, and there are warnings about floods in some areas. People need to be careful and listen to the news.

After the rainy season ends, summer begins. The sky turns blue, and the sun shines brightly. Many people feel happy when the rain stops, but they also know that the rainy season

is necessary for nature. It is a special time in Japan that connects people's lives with the rhythm of the weather.

ア The rainy season starts in June and goes on until mid-July. During this season, many people carry umbrellas because of raining. The rain sometimes becomes heavy, and it causes floods. However, it helps to grow crops up. This season is necessary for people's lives and nature in Japan.

イ The rainy season is very important for Japan. In this season, you can see many colorful umbrellas in streets. Children are happy to see them. When they go outside, we must have umbrellas. However, after this season, the summer will start.

ウ The air feels warm and wet during this season. So the rain helps rice fields grow, which is why farmers become happy. However, sometimes, the rain becomes very strong, and it causes floods in some areas. We have to be careful and listen to the news.

エ "Tsuyu," the rainy season, is necessary for people in Japan. During this time, the sky is often gray, and rain falls almost every day. After this season ends, summer begins. The sky turns blue, and the sun shines brightly. It is important for us to spend this time to welcome summer of Japan. (正答 ア)

(ア) 問題作成のポイント

- ・「読むこと」における「思考・判断・表現」は、話された内容を読み取った上で、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、「必要な情報」や「概要」、「要点」を捉えることを評価するものである。
- ・パフォーマンステストやペーパーテストにおける「聞くこと」の能力に重点を置いた領域統合型の評価問題においては、他領域の負担を減らし、採点基準の設定に留意する必要がある。
- ・「読むこと」と「書くこと」の領域統合型の問題の場合
解答を単語で書かせたり、英文で書かせたりする場合は2、3文程度にしたりして、「書くこと」の負担を減らすこと。(本事例、パフォーマンステスト参照)
- 「読むこと」と「話すこと[発表]」の領域統合型の問題の場合
読んだ内容を他者へ口頭伝達する際には、読んだこと全てを口頭伝達するのではなく、概要や要点を他者へと伝達するなど、「話すこと[発表]」の負担を減らすこと。
- 「読むこと」と「話すこと[やり取り]」の領域統合型の問題の場合
・概要や要点を捉えるために、生徒自身が読んだことに関連する質疑応答を行い、自分の意見を整理しまとめたり、相手の意見や考えを捉えたりすることが考えられる。あるいは互いに知らない第三者のことについて読んで分かったことを基に、自分たちの考えを他者と英語でやり取りし、意見をまとめるなどの活動が考えられる。いずれの場合でも、「読んだこと」を引用し話を続けるなど「読むこと」に重点を置き、発話の正確性の評価に賞嘆を当てしすぎないような工夫が必要となる。

改善が必要な例：目的や状況が明確ではない例

次の英文は、かえでさんが「梅雨」に関する内容を英語で書いたものです。これを読み、かえでさんが改めて書いた英文の概要（文章全体の大まかな内容）として最も適切なものを、下のア、イ、ウ、エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

(イ) 本問題の特徴

- ・コミュニケーションを行う目的や状況、場面等を明確に設定し、単元を通して指導してきたこと（まとまりのある文を聞いて、その概要や要点を捉えること）を踏まえた問題である。
- ・当該単元で扱った言語材料を必ず使用する必要はない。課題を解決するにあたり、コミュニケーションに支障をきたさない英語で書かれているかを問う問題である。